



志布志市ゼロカーボンシティ宣言



～2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにする～

近年、温室効果ガス排出量の増加により地球温暖化が進み、日本では巨大台風や線状降水帯による災害が、世界では干ばつや島々の水没等が発生し、多くの死者が出る甚大な被害となっており、今後、更なる激甚化、頻発化が懸念されています。

このような状況を踏まえ、世界的に、脱炭素社会に向けた動きが加速しています。2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅2℃未満」を目標とし、2018年に公表された国連の気候変動に関する特別報告書では「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑える」ことを目標としております。この目標達成に向け、日本では「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロに、2030年には2013年度比で46%削減を目指す」との政府方針が示されました。

本市では、平成11年から、市民、事業者と共に、「混ぜればごみ、分ければ資源」を合言葉に、他自治体に先駆け本格的な分別排出収集を行い、埋立ごみの減量化と再資源化をはじめ、持続可能なまちづくりを進めてきました。

また、平成20年からは、国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業を展開し、フィジーを中心とする大洋州諸国において、分別して埋め立てごみを減らす取組「志布志モデル」の普及を図り、廃棄物減量化の支援を行ってきました。さらに、平成28年11月からは、紙おむつの再資源化に向けた実証試験を行っています。

このような経験を踏まえ、志布志市は、持続可能な社会の構築に向けて、「2050年ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、次に掲げる温暖化対策に全力で取り組んでいくことを宣言します。

- 1 気候変動とカーボンニュートラルの必要性に関し、市民への周知啓発に努め、全市民が更なるごみの削減を図るため、Refuse（リフューズ。ごみになるものは断る。）、Reduce（リデュース。ごみを削減する。）、Reuse（リユース。何回も利用する。）、Recycle（リサイクル。ごみを再資源化する。）、Repair（リペア。修理して長く使う。）の5Rに積極的に取り組みます。
- 2 市民、事業者と共に省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの自給率向上を目指します。
- 3 SDGsに掲げる「誰一人取り残さない、持続可能でよりよい社会の実現」を目指し、住民の暮らしの向上と豊かな自然を生かしたまちづくりを市民と共に進めます。
- 4 「2050年ゼロカーボンシティ」の実現のため、市民、事業者、行政が一体となって全力で取り組みます。

令和4年(2022年)2月24日

志布志市長

下平晴行